

# 高東京矢高会 ニュース

## 第41回総会

### 開催される

5月22日(日)東京都千代田区淡路町「ホテルジラク」にて矢上高校卒業生会東京支部第41回総会が開催されました。山本立身支部長(13期)のご挨拶の後、当日品雨町から遠路ご出席頂いた野田大三郎教頭先生、三宅正隆(10期)卒業生会会長から、矢上高校の近況とご挨拶を頂きました。また、小林美介矢上高校魅力化コーディネーターからそれぞれ矢上高校の近況、東京や大阪からの入学者もある等今後の抱負についてのご挨拶がありました。和やかなごやかなひと時でした。



## 二〇一六・秋

### ルーツ?を訪ねる

東京支部長 山本立身(15期)

夏が終わろうとしている。今は夏は田舎に帰らず自宅でゴロゴロ。それではいけないと今秋、帰郷することを計画している。高齢者と言われる年齢になり、自分のルーツ?をたどってみようかと考えたのです。

自分自身の71年をひも解いてみるのも面白いかなと考えてみました。小生、産まれは島根県大田市です。6歳まで大田市、次に邑智郡日貫村(母の実家)、そして矢上駐在所跡地に建てた家で18歳まで、そのほとんどは矢上の地です。大田市は幼稚園卒園までで、近くに大きな川が流れていたのを覚えております。それからよく覚えていたのが海です。海に浮かんでいたのを忘れることはできません。父親の職業のせいかな魚を見て育ったことも覚え

ております。日貫の生活は、

叔父(母の兄)夫婦に子供がおらず、随分と可愛がってもらった。後年叔父が亡くなった時、近所の人から、いよいよあんたの出番だねと言われたときはドキッとしました。でも日貫には住みませんでした。だから今、日貫には誰もいません。さみしい限りです。

さて矢上での生活ですが、しっかり者の母親育ちの小生ですが、いい加減なところが多くどうしてこうなったのか?よく分からない。今も大好きな野球ですが、小学校4年頃から、暗くなるまで家にも帰らず校庭に居続ける毎日でした。ついには近所の人から心配して迎えに来るといふ。今思えば馬鹿げた日々です。その時期(いやずつと?)なぜこの位勉強をしなかったのだろうと悔やまれます。しかし野球(軟式)では、中国大会までは、高校2年・3年の時出ることができました。そんなこんなで今この年齢に

発行日 平成28年10月10日  
 号数 第14号  
 発行 矢上高校卒業生会東京支部  
 発行人 山本立身 編集人 三宅良二  
 事務局 千葉市若葉区若松町902-2



なつて、幼稚園・小学校・中学・高校と育った。いや育てられたそれぞれの地を辿ってみようと考えたのです。そのために毎日一時間位の散歩をして体力づくりをしております。さて、どんな旅になるのやら・・・楽しんでみな旅であることは間違い無い!

\*\*\*\*\*  
地元で矢高卒業生会会長になりました

前支部長 神田恵介

(現在井原在住13期)

ご無沙汰しています。稲積さんが帰られ八田さんも帰られたので、田舎に行ったらのんびりと暮らせいいことがあるのかなと思つて帰ってきましたが、そうは問屋が卸さなくて東京以上に忙しいような感じです。

しかし、都会より空気が全然違うし見える景色が緑ばかりで安らぎがあり、気をセカセカさせながら動かなければいけないということはありません。

自分で野菜を作るのも一度挑戦しましたが、やっぱり自然(草の力)には勝てませんでした。そんなことで近所からいつも食べきれないぐらいに新鮮な

菜り立て野菜をいただくので自分で作るのはあきらめました。健康のため東京にいるときからやっていたフィンランド発祥の2本のポールを持って歩く健康づくりスポーツ、ノルディックウォーキングを田舎でもやり、昨年12月チャリティノルディックウォーキング大会を香木の森公園で行ったら百二十人ものたくさんの方が参加してくれました。今年の5月には元オリ

ピック金メダリスト萩原健司さんを呼んで講演会と教室を開いたときは百五十人も集まりました。

邑南町は2020年東京五輪パラリンピックのホストタウン(選手の前合宿地)として立候補し国から交渉権を認められて、フィンランドのゴールボール選手をターゲットにフィンランド共和国と折衝を始めました。

私もノルディックディックウォーキングをやっている手前、麻布のフィンランド大使館まで町長と同行し、是非邑南町にというところまではよかったです。フィンランド大使の方から、「ノルディックウォーキングをやっておられるようだし、邑南町に

フィンランドの友好団体を作つて欲しい」と言われ、選手誘致がうまくいかなくはというところで、先日「おおなんフィンランド協会」を立ち上げたところですが、私が会長になり八田さんが副会長、稲積さんに理事をお願いしております。町の方では8月に32名の交流交渉団(団長町長)を組んで直接フィンランドまで行かれました。

田舎も楽しいことが多くあり、皆さんも是非帰ってきて一緒に町を盛り上げていただきたいと思つています。また時々帰るときは声をかけていただき、一緒に食事でもできたらいいなと思います。先日は坂根さんが帰ってきてくれ矢上の池寿司で飲みました。矢上高校は相変わらずですが、野球部監督の大島さんが転勤された千葉の木更津総合高校が、甲子園に出て、おとなりの広島新庄高校をやつつけてくれました。新庄高校は野球で名を上げ矢上高校に来る生徒さんが少なく困つているところです。

矢上高校の野球部の連中に木更津総合野球部の胸を借りに行けと言っています。その時は東京の皆さん方にはお世話

になると思いますのでよろしくお願ひします。

今年7月から矢上高校の卒業生会会長を仰せつかつています。東京で支部総会があるときは行こうと思つていますが、会えるのを楽しみにしています。よろしくお願ひします。

おおなんフィンランドで検索したらフィンランド協会のホームページが見られます。

\*\*\*\*\*

### 古希を迎えよ

徳永 静江(16期)

3年半前、『矢高会ニュース』に私のつたない原稿を載せていただきました。この度再び原稿依頼を受けたものの、これといった話題もなく困惑していますが、直近のニュースを敢えて取り上げたいと思います。

昨年11月12日、私たち16期生は、「古希を祝う同窓会」を小雨降る安芸「宮島」にて開催しました。1泊2日の旅は、男性6名女性10名の計16名が集いました。男性陣が少なかつたのですが、その中には、矢高卒業後半世紀ぶりに出会うAさんがいました。一瞬とまどいましたが、面影は当時のままで



すぐに打ち解け、夜が更けるまでおしゃべりは尽きませんでした。ところが、事もあろうにこの

8月13日に男性陣のBさんの訃報が届いたのです。Bさんは1年位前心臓の手術をし経過良好だったのですが、同窓生皆シヨックを受けました。特に私は、Bさんとは保育所から市木小、中、矢上高校と成人するまでの13年間をずっと一緒に学んできた仲でしたから余計です。残念で悔しい思いは今

まだ断ち切れないでいます。次の同窓会は3年後です。加齢とともに、これからの同窓会は参加者が、減ることはあっても恐らく増えることはないでしょう。さて、私はと言えば、相変わらず母校の大学で週3日の非常勤講師をしています。余暇はパソコン教室やフィットネス、ガーデニングなど結構忙しく過ごしています。先月末には、毎年恒例の「人間ドック」に行き、健康管理にも努めています。矢高同窓会・東京支部には案内をいただきながら、1度も参加していませんが、元気でやっています。矢高同窓会のますますの発展と皆様のご健勝を心から

願っています。

### ふるかじり

高宮千加子(26期)

五 六年前の事です。田舎に帰った時、路線バスに乗る機会がありました。運転席の近くに乘っていたのですが、停留所で女子高校生が、定期券を見せながら「ありがとうございまして。」と言いながら降りていきまいた。運転手さんも「気を付けて帰りんさい」と言うやり取りを耳にして、「はっ」としました。お客だから乗せてもらって当たり前前の事だけど、目的地まで安全に運んでもらいありがとうという思いがあつたのだと思います。その気持ちは、運転手さんにも伝わり、優しい言葉が返ってきたのだと思います。

どんな時も、どんな所でも感謝と思いやりを持ち続けなければいけないと改めて教わった時でした。

日々の雑多な用事の中で生活する事に追われ余裕の無くなった私に、田舎のゆっくり流れる時間と、女子高校生と運転手さんの遣り取りが私に余裕と心の潤いを与えてくれました。この時のことを思い出し、「ありがとう。」の心を言葉に出して伝えよう

としています。

余談ですが、私は小学校のボランテニアでバレーボールの指導をしています。が、技術だけでなく、感謝の心を持つ事、思い遣りの気持ちを持つ事を、むしろ、技術以上に伝えることが多くなりました。

### しまねU・ーターン

#### フェアーン東京

28年11月23日(祝)東京国際フォーラム展示ホールE(東京都千代田区丸の内3-5-1)に於いて「しまねU・ーターンフェアーン東京」が開催されます。

「離島中山間地域の高校によるプレゼンテーション」のコーナーでは在校生が矢上高校の特色のあるカリキュラムや邑南町の魅力をアピールする予定です。

### 仮称 チャレンジショップ

#### 日本橋しまね館

毎年恒例のチャレンジショップ。島根県内の高校の生徒が協力して日本橋しまね館に出店、矢上高校も出店し、在校生が上京します。売り切れ前に行っちゃんさいよ。(在校生は14時まで)

29年 1月 12日(木)  
日本橋しまね館

東京都中央区日本橋室町

1丁目5番3号福島ビル1階

### 平成二十八年年度のお礼

#### 今年度年会費のお願い

本支部の経費は、皆様方からの会費・寄付金で運営されております。本年度年会費をお納め頂きました皆様有難うございました。大勢の方にご協力頂きました。一口千円として何口でもお納め頂くことができます。になっていきます。同封の払込用紙にてお納め頂ければ幸いです。ゆうちょ銀行からの振込の場合は手数料がかかります。まだの方は本年度の会費をお納め下さいませよう宜しくお願いします。

会費一口千円 何口でも

口座〇〇一四〇一〇一七二二七七

金融機関からの振込用 口座番号

ゆうちょ銀行〇一九ゼロイチキユウ店

当座 〇〇七二二七七

口座名 矢上高校卒業生会 東京支部

平成二十八年年度会費納入ご芳名

十口一万円 三宅弘文(12期)

五口五千元 中村輝夫(4期) 大

羽登(5期) 四口四千元 山本立

身(15期) 三口三千元 石川義之(5

期) 服部豊(15期) 戸司恵美子( 期)

神田恵介(13期) 服部俊之(15期) 横畑



篤(21期)酒井富雄(22期)三宅光寛(21期)下瀬忠枝(5期)

二口千千円 三宅雅寛(23期)宮田勝(14期)本田 博(10期)後藤勝子(6期)花本保博(10期)山本明子(17期)渡辺正己(14期)木村信江(18期)日野山勉(10期)熱田和人(6期)日野原育生(8期)日高勇(19期)三宅良二(35期)

一口千円 森脇 清(17期)浜田逸子(14期)森岡武(14期)枝久保美千恵(10期)椿美津枝(13期)佐藤直子(一期)佐々木チズ子(6期)江藤洋子(13期)三宅伸二(29期)久藤協宏(13期)日野修治(17期)宮田勉(19期)門屋邦子(12期)上田昭臣(17期)久長瑞枝(5期)野坂正(5期)竹内常年(瑞穂18期)伊賀美穂(21期)寺本廣宣(19期)日野 奈津江(瑞穂3期)斉藤均(19期)岡本博仁(15期)小尾保子(6期)岡部輝生(21期)室永 和子(6期)山田 勅(18期)日野勇夫(瑞穂7期)神田信子(23期)倉持桂子(14期)植田豊(13期)山本信子(13期)椿満男(8期)森脇好恵(16期)稲田 幸(8期)島村 不二子(19期)一谷邦男(9期)宇津本由紀子(8期)伊東順子(23期)中村延枝(6期)坂根節男(13期)吉里輝子(13期)

### 矢上会「ゴルフ」案内

恒例となりました東京矢上会ゴルフ。今回は3組以上の開催に。和やかな

楽しいゴルフです。ぜひぜひご参加下さい。(遠慮おせんこう来ちゃんさい)

日時 12月7日(水)

集合 午前8時30分

スタート 8時45分 南コース

### 場所 川越グリーンコース

埼玉県川越市古谷本郷八六五一一

TEL 〇四九一―三六一―二二二

美女木JCC(高-speed埼玉大宮線与野JCC

クラブバス J.R埼玉線南古谷駅右手側

埼玉県信用金庫から運行

(お迎え 7時05分 7時50分

8時30分 9時05分)

プレイ代金 一一、六六四円

(食事代込み・各自精算

懇親会費 3,000円

### 夫よの方言

はあ 忘れんさつたろう。矢上弁。たまにやあ思い出しちゃんさいよ。

前号の問題「かやる」、「いたしかつたかいな。正解は「倒れる」ひっくり返る」でした。この時期に台風でも来り

やあ、はでがかやるで。機械で乾燥するなあ楽でええが、天日干しやあ手間が掛かりやあするが、米の味が違うけえなあ。

正解しんさつた先輩にやあ全員に記念品をあげるで。記念品は絵会の時にあげるけえ、正解しんさつた方

は必ず出ちゃんさいよ。楽しみにしとつちゃんさい。

さあ、今回の矢上弁の問題は「あまだ」。機械メーカーの、あの「アマダ」

たあ違うで。よお思い出しんさらんかつたら、矢上の親戚や同級生に電話して聞きんさつたもええで。用が有るときだけ電話するようじゃあやれ

んで。たいした用が無いような時も、たまにやあ声よお聞かせてあげちゃんさいよ。

\*\*\*\*\*

### 前号のお詫びと訂正

寄稿頂きました日高正行さんは10期の誤りでした。訂正とお詫び申し上げます。

### 編集後記

紅葉の季節となりました。そろそろ矢上高校を囲む山々も色づき、おいしい新米も出回るようになりました。

先般、出雲國たたら風土記「鉄づくり千年が生んだ物語」と題し、雲南市・安来市と奥出雲町が日本遺産に認定されました。明治時代に八幡製鉄が出るまで、長い間、中国地方の山間地域が鉄(砂鉄)の一大生産地で、全国の約八割だったそうです。砂鉄を取る作業が「鉄穴(かんな)流し」。一畝一畝、山を切り崩して川や水路に流して砂鉄を取り出すもの。邑南町にもその名残が

ずいぶんとあるようです。鉄穴流しに利用された水路がそのまま水田の水路に利用され、山際の田んぼや、棚田のほとんどが、この鉄穴流しの跡を水田

になったようです。棚田の上の方の田んぼのことを「空田(そらた)」と呼んだとか。生前父親が家より高い所にある、山際の田の作業に行くときに、「空に行つてくる」と言っていました。ようやくその「空(そら)」の意味がわかったような気がしました。いこの村から見下ろす盆地の風景は、「日本むかし話に出てくるような、のどかな田園風景

ですが、これが実は、一畝一畝、山を切り崩してできた人工だったとは、驚きです。平地に、ところどころに小高い森があります。そこは古くからの、先祖を敬う神社であったり、お墓であったり。改めて先人に敬意を表します。この鉄穴流しについて、またの機会にもう少し詳しくお伝えしたいと思います。

今号に原稿お寄せ頂きましたの皆様有難うございました。この場をお借りして御礼申し上げます。次回発行は、3月の予定です。皆様からの原稿をお待ちしております。十分注意しておりますが誤字脱字、見づらいところもあろうかと思いますが、どうぞお許し下さい。お気づきの点がありましたら何なりと申し付け下さい。いよいよ秋、スポーツの秋、食欲の秋、どうぞご自愛下さい。三宅 良二(35期 矢上出身)